

市立大谷小学校の全児童に台湾バナナをプレゼント！ ～台湾フルーツの寄贈、ことして4回目～

1月22日、台湾でフルーツの輸出販売業を手掛ける林 志鴻（りん しこ）氏から、市立大谷小学校の全児童に台湾バナナを寄贈された。

同氏は、東名高速道路EXPASA海老名で台湾マンゴーを販売していたことが縁で、台湾フルーツのおいしさをさらに知ってもらいたいとの思いで、市内の保育園などの子どもたちに台湾バナナを寄贈しており、台湾フルーツの寄贈はことして4回目。

今回は、海老名サービスエリアに近い同校の全児童 564 人に2本ずつ合計 1,112 本の台湾バナナが配られた。

台湾バナナは、ねっとりとした濃厚な甘みが特徴で、寄贈を受けた同校の6年2組の児童たちはバナナをもらうと、「おいしそう」などの喜びの声をあげていた。



▲左から謝長廷（しゃ ちょうてい）台北駐日経済文化代表処駐日代表、林 志鴻（りん しこ）氏、内野優市長、青山忠司中日本エクシス株式会社代表取締役社長、伊藤文康教育長

◎この件に関するお問い合わせ

海老名市教育部就学支援課 電話046・235・4921

